

相模湾及び紀州田辺湾産のクーマ目数種

蒲生 重男 (横浜国立大・学芸)

相模湾及び紀州田辺湾より得たクーマ類数種類につき分類学的研究を行い次の様な結果を得ることが出来た。

1. Bodotriidae 科: 田辺湾から得た 1 種は Hale ('47) がオーストラリア西海岸より記載し, Kurien ('54) が印度のアンダマン諸島より報告せる *Cyclaspis strumosa* HALE の亜成雄に同定される。

同様に田辺湾から得られた *Vaunthompsonia* 属の 1 種は, 比較検討の結果, 欧州沿岸, 地中海, 紅海, 印度支那 (Zimmer '52) より知られる *V. cristata* BATE に同定されるものと考えられる。

2. Nannastacidae 科: 欧州産の *Nannastacus longirostris* SARS, 西太平洋産の *N. brachydactylus* GALMAN に近似の種類が相模湾, 田辺湾より, 又甲殻に棘と長毛を具える *Schizotrema* 属の 1 種と, 甲殻背側に 1 対の縦溝とその背後部に粗大な網目状の隆起を有し, 細毛と微小棘を具える *Campylaspis* 属の 1 種が相模湾より得られた。何れも新種として, それぞれに *Nannastacus japonicus* sp. nov., *Schizotrema spinosa* sp. nov., *Campylaspis reticulata* sp. nov. を提唱致し度い。

ヤッコヤドカリ *Cancellus investigatoris* ALCOCK
の不对腹肢 (甲殻十脚目)

三宅 貞祥 (九大・農・動)

本種はインド洋および相模湾に産し, 死サンゴ塊に穴をつくつて, 相称の腹部を挿入して生活するヤドカリ科の珍奇種である。本属にふくまれるものは 9 種を数えるが, 腹肢はどの種にも雄にはなくて雌にだけあり, しかも左側にだけ 4 個着生する。これは本属の特徴の 1 つに認められている。ところで本種の雌はこれまでに記載されていないが, 本年 1 月相模湾東部 (水深 62—97 m) で採集された雌 2 個体 (甲長約 10 mm) がある。それは偶然にも 1 個体は左側に, 他は右側にだけ 4 個の不对腹肢をつけていた。この貴重な標本によつて本種の特徴を訂正する必要がある。由来ヤドカリ科をふくむ異尾亜目の形態の相称, 不相称は他の十脚目と異なり, 種属に固定したもので, 種属を決定する重要な特徴となつている。不对腹肢が左右いずれか片側に着生する例は, インド洋産 *Paguroopsis typica* HENDERSON の 1 属 1 種が知られている。これは本種とともに系統を論議するうえに重要な資料と考えられる。

Nelima genufusca (KARSCH) の変異

鈴木 正将 (広島大・理・動)

N. genufusca は本州・北海道・樺太などに広く分布する最も普通の盲蛛だが, 形態的に著しい変異を示す極めて複雑な種であり, 同一地域において, また産地により多くの種に分割せられている。しかしその大部分は諸種の変異を十分に考慮せぬために生じた同物異名とみなされる。同種の本性を知るには広大な分布域にわたる十分な材料の検討が必要である。本種は盛夏に最終脱皮をなし, 秋に成熟するが, その間成熟に伴い色斑・形状に目立つた変化が現われる。ことに雌では変化が著しく, かつて各性を全く別種と見誤らせた程である。雄の色斑の差もしばしば誤まりの因となつている。また体や歩脚などの大きさは産地により驚く程異なり, 両極端の平均値は体長 2:1, 脚長 3:1 の著差を示している。この変異には温度との相関もみられ寒冷地ほどその値が小さいが, これには他の要因も働いているようである。